

# 1 自己評価及び外部評価結果

## 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4372401135		
法人名	有限会社 ふれあい松川		
事業所名	なごみの園・菊水		
所在地	玉名郡和水町長小田334番地		
自己評価作成日	平成25年1月	評価結果市町村受理日	平成27年3月12日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://search.kaigo-kouhyou-kumamoto.jp/kaigosip/Top.do">http://search.kaigo-kouhyou-kumamoto.jp/kaigosip/Top.do</a>
----------	---

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 あすなる福祉サービス評価機構		
所在地	熊本市中央区南熊本三丁目13-12-205		
訪問調査日	平成27年2月13日		

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

施設敷地内に農園を作っており、入居者の方と一緒に作って、収穫して、それをその日の食材として皆さんで頂いています。ご近所の方も畑を耕して下さったりと、地域の方とも一緒に交流しながら野菜などを作っています。また、小学校が隣にあることで、小学生との交流会もあり皆さん喜ばれています。施設周辺は田んぼや自然が多く、四季折々の花や田んぼの風景が変わるので、散歩のときなど季節を感じる事ができます。併設しているデイサービスや有料老人ホームの方々との交流も図っています。

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

昨年、開所から10周年を迎えたホームでは、4月に『地域のえんがわ』として敷地内の藤棚や有料ホームのテラス、グループホームの全館を指定対象として、普段から地域の人々に気軽に立ち寄ってもらえるような取り組みに着手している。周辺の自然環境や隣接する小学校の子供たちとの相互交流は入居者にとって又、核家族の中で暮らす子供達にとっても互いの存在が嬉しく楽しい取り組みとして当初より継続されている。統廃合により小学校とのこれまでのような身近な交流がなくなっていくことは残念であるが、何かの機会にはホームに顔を出してもらえよう働きかけが期待される。代表者をはじめ職員は長年、生活を共にしてきた入居者との関わりに思いを寄せ、意向に応える形で看取り支援が行われ関係者から感謝の言葉が寄せられている。今後も地域との連携を深め、なくてはならない事業所として年月を重ねていけることに期待したい。

## V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

# 自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。〕

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念に基づき、その人のペースに合わせて、時には地域の方と交流し、和んだ雰囲気作りを心がけている。また、毎朝職場の教養を読み、それを日々意識付けし、実践に繋げている。	昨年、開設10周年を迎え地域の人々と共に記念行事を催し、支えてもらった日々感謝すると共に、職員一人ひとりが新たな気持ちで11年目をスタートしている。毎日の関わりの中や機会あるごとに理念に立ち返り入居者主体の生活が展開されている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	近隣にバラ園、コスモス畑等があり、季節ごとに四季折々の花々を見ることが出来る。また、地域の方より野菜や果物を頂いたり、GHの畑を耕して頂いたり、作り方を教えて頂いたりして交流を図っている。	当ホームは昨年『地域のえんがわ』として併設施設の一部とホーム全館を地域へ開放し、気軽に立ち寄ってもらうよう看板の設置や運営推進会議での啓発により地域に投げかけている。地元小学生の来訪、持久走大会の応援など、子供たちとの総合交流は継続され、中学生のナイストライの受け入れや認知症サポーター講座の開催など地域貢献にも尽力している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	見学や研修に来られる方にどのような場所であり、どのような対応をしているのか、説明している。	/	/
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	1回/2カ月に開催して、ご家族・民生委員さん・役場・福祉事業所・他施設の方にご参加頂き、活動状況の実施を報告して、その都度ご意見を頂いている。それを職員間で話し合っている。	会議には行政や包括・地域代表者や家族が参加する他、同業者も出席し同じ立場から様々な意見が出されている。2か月ごとの活動報告や入居者の現状を伝える中で、参加者からの率直な意見や家族の思いを引き出し、運営に反映させている。	行政担当者も毎回参加し、法改正に伴う町の現状などが分かりやすく伝えられるなど会議の場が活かされており、今後は当日出席できない方からも事前に意見をもらったり、会議内容を家族に開示し共有することが望まれる。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議には毎回出席して頂いているので、その時に質問したり意見交換している。	運営推進会議への行政の参加により互いの情報を共有し、質問や相談事に応じてもらうなど有効な関係が築かれている。今後もホームの現状を率直に伝えながら、アドバイスや指導を運営に活かしていきたいとしている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束の勉強会を行い、1人1人が拘束の内容を把握し、拘束をしないケアを職員間で話し合っている。	月の会議の中で身体拘束や虐待について勉強会の時間を設け、拘束に当たる行為について全職員が認識する機会を持っている。職員は入居者の現状をしっかりと受け止め、トイレ介助の際には言葉かけをしながら誘導し、出来ることで自信を持ってもらい尊厳に繋がる支援を心がけている。不穏になられた場合もその方にふさわしい対応を代表者を含め検討しながらチームワークを持ってあたっている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止の勉強会を行い、全職員の理解に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	勉強会の中に取り入れ、また個人の必要性の有無も考えながら行っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約には十分な時間を要し、納得して頂くまで説明を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会に来られた際や運営推進会議の際に現状報告し、意見を求め、それを職員間で話し合い、今後の介護に反映できるようにしている。	月1回の報告書で入居者の現状を伝えながら、本人や家族の意向を気軽に話してもらえるような関係に努めており、面会時には職員が直接入居者の様子を伝えている。意見や苦情などは出されていないが、重度化した場合の不安などを話される家族も多く、ホームに出来る支援を行っていくことや、必要に応じて話し合いを重ねていくことを伝え何かあればいつでも連絡して欲しいと申し添えている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に1度の定例会にて意見を聞く場の提供を行っている。代表者は毎朝訪問し、職員の意見を聞いている。また、代表者と管理者等は月2回の会議を通して意見交換を行っている。	毎月の会議で職員の意見を収集する他、代表者は毎日ホームを訪れ入居者の把握と、職員の体調管理に気を配り働きやすい職場環境に努めている。また、代表者と系列事業所の管理者が集う会議も開催されており、地域の中の福祉事業所としてしっかりと横の連携を図る機会としている。	職員のアイデアで竹を使ったソーメン流しや、外出の少ない夏場に、ファミリーレストランでカキ氷を味わうなど入居者の楽しみを引き出す機会が設けられている。今後も職員のアイデアや一工夫で入居者の笑顔を引き出していきたい。
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	月に2回の代表者と責任者の会議にて勤務状況を報告しており、年に1回は職員個人の実績を考慮して功労者を表彰している。必要に応じて個人面談も行っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修に可能な限り参加できるようにしており、月に1回はホーム内での勉強会も行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	玉名郡市部GH連絡協議会の集まりや、他のGHの運営推進会議の参加し、そこで交流ができ、意見交換も行えている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人の言葉に耳を傾け、表情や行動を観察し、心の奥に秘めている気持ちを見いだせるように心掛けている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の悩み・戸惑い・不安等をしっかり聞いて受け止め、要望により近いサービスが提供できるように支援しながら関係作りに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	まずは話をよく聞いて、本人と家族が何に困っておられるのか考え、必要と考えられるサービスの提供を行っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者さんは人生の先輩であり、今までの経験などを尋ねて、それを共に生活に役立てている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	月に1回本人さんの状況報告を郵送にて行っている。家族の面会を大切にして、誕生会など一緒に参加して頂き、共にお祝いしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	地域のボランティアの方々の訪問や親戚の馴染みの方々の面会が時々あっている。入所されてできた馴染みの場所には定期的に散歩など行っている。	入居者にとって大切な家族や親類が来訪した際は、ゆっくり過ごしてもらえるように配慮している。ホームの周辺は長閑な田園風景が広がる馴染みの光景であり、季節の移り変わりを目の当たりに出来ることは安心にもつながっている。また、家庭的な環境の中、餅つきなどの正月行事や子供たちによる“もぐらたたき”、夏場のソーメン流しなど懐かしい行事が支援されている。	入居者にとって馴染みの人や場所に加え、今後はこだわりや趣味の継続など出来る支援に努めていかれることに期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず に利用者同士が関わり合い、支え合えるような 支援に努めている	食事の準備や洗濯物を畳んだりと共に支え 助け合い、またレクリエーション・ドライブ・散 歩など皆と楽しく過ごせる時間を大切にしてい る。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関 係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族 の経過をフォローし、相談や支援に努めている	転移されたホームや施設へ面会へ行ったり、 ご近所のご家族とはずっと交流を持ち、 時々来園されその方の話をしてくださる。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握 に努めている。困難な場合は、本人本位に検討し ている	本人・家族の言葉の中から、本人の思いや 何をしたいのかを把握し、できるだけ本人の 希望に添えるように努力している。	可能な限り個々の思いに応えることがで きるよう、本人・家族の発せられた言葉か ら把握するように取り組んでいる。特に ベッドでの生活が中心になられ方や、不穏 状態や不眠が続いた場合など、その方に とって何が、どのような可関わりが最良の 支援となるかなど、代表者や職員で検討 を重ねプランに繋げていることが聞き取り にも表れていた。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環 境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努 めている	本人と家族の話の中から生活歴を少しでも 多く把握し、その人の性格・趣味・仕事等を 理解したうえで、その方の介護に努めてい る。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する 力等の現状の把握に努めている	個別記録に日々の出来事や変化を記録記 入し、全スタッフが情報共有し把握できるよ うに努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人・家族より意見を聞いて、職員間では1回/月の定例会で意見交換を行い、それも参考にして介護計画に繋げている。必要時、担当者会議を開いているが、回数は少ない。	計画作成担当者によって本人・家族の暮らし方への希望を引き出し、プランに反映しながらケア会議での職員意見を盛り込んだ内容を立案している。3か月ごとの見直しにより現状をしっかりと把握し、支援の継続や検討事項を見極めて変更している。作成されたプランは内容をゆっくり伝えながら進めており、納得のもと了承を得ている。本年度は二例の看取りも経験し、家族を交えた担当医師とのカンファレンスの中から入居者本人の意向を押し量り、最期までホームでの生活を支援している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	常に個々日々の状況を記録し、それを読むことで皆が理解でき、情報を共有して介護計画に繋げられるように努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人または家族が面会を希望される際、一緒に食事を摂ったりして過ごせるよう、その時の状況に応じて柔軟な対応をするように努めている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営推進会議の中で、社会福祉協議会・民生員さんや区長さんなどと意見交換を行い、さまざまな情報提供をして頂いている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人・家族の希望を尊重し、かかりつけ医を選び、定期的な往診と定期受診等支援している。	かかりつけ医については本人・家族の希望を尊重し定期往診が支援されている。職員も、看護職員と共有しながら日々のバイタルチェックや表情・言動などから異常の早期発見に努めている。また、3日間に渡り全入居者の健康診断も実施されている。今冬もインフルエンザ感染が心配される中、ホームでは換気や日々掃除の徹底を図り入居者の健康を支援していることが確認された。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護師と連携を取り、日々の健康管理をホーム内看護師と相談しながら支援に努めている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	安心して治療に専念して頂けるよう、また不安がられないよう定期的に面会へ行っている。早期退院できるように病院関係者と情報交換を密に行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	看取りについて説明を行い、家族の意向を聞き、事前指定書に記入してもらっている。	重度化や終末期支援についてホームの方針を家族へ説明しており、事前指定書への記入を受けている。また、家族の気持ちの変化を受け止め、その都度対応を検討していく事を申し添えている。代表者はご縁のあった本人・家族の思いを大切に日々支援することの重要性を職員へ指導しており、ホームに出来る支援に心を込めて取り組んでいる。また、法人看護部長による看取り支援に関する研修の機会も持たれている。	本年度は本人・家族の意向を尊重しながら二例の看取り支援が行われている。今後もホームでの看取りを希望される方のために職員のメンタル面にも配慮した研修会の開催などにも期待したい。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	勉強会で行ってはいるが、皆が実践力を身につけていないのが現状である。緊急連絡網ですぐに連絡できるようにはしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	2回/年消防・避難訓練を実施している。消防署の方・消防団・行政関係・さらにご近隣の方々のご協力のもとに行っている。災害の時は地元の区長さんへ連絡すれば、町内の方が駆けつけてくださるようになっている。	春と年末の年2回、日中で昼間を想定した火災・消防・避難訓練が隣接の系列施設と合同で実施されている。訓練には消防署や行政、近隣者の参加や、有事の際は区長を通して町内の方々の協力が得られる体制となっていることは心強く、感謝を語っている。ホームでは「火気関係」自主検査チェック表(日常)を作成し、外周りの不審物、台所の元栓、居室・ベランダなど項目に沿った確認が行われている。	今後は夜間を想定して訓練の実施を行いたいとしており実現が期待される。合わせて地震など自然災害についてもまずは机上訓練の開催や、備蓄品の再検討、地域消防団にホーム内の様子を確認してもらうなど今後の取り組みに期待したい。



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個人情報目的に応じて本人・家族に了解を得て使用している。入居者の方に対して言葉使いなど相手を尊重しながら使用している。	入居者を大切に言葉や対応については、法人代表者からも機会あるごとに、指導が行われており、方言を交えながらも失礼がないよう申し合わせている。呼称は苗字の他、幼少期から呼ばれている下の名前が安心されるなど、個々の状況に応じている。個人情報の使用については本人・家族の了承を得、職員の守秘義務の徹底は、採用時や会議の中で指導されている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	希望や願いを把握するために答えやすい内容を会話の中に入れて話を聞いている。また、表情や全身での反応を見逃さないように努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	本人の動きや状態に合わせて一日の過ごし方を変えている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	好きな服を選んでもらったり、鏡の前にヘアブラシを置いて、いつでも身だしなみがきれいできるようにしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	献立をたてる際、入居者さんの意見を取り入れている。入居者さんと一緒に食材の買い物や食事の下準備・食器洗い・お盆拭きなどの手伝いもされている。	入居者の好みのメニューは聞き取りやテレビ視聴の中で「あれが食べたかな～！」と話される方もおられ、当番職員がひと月の献立を作成している。野菜をはじめ、竹の子や栗など差し入れも活用され季節の楽しみとなっている。また、家族や地域の方々を招いての手作り食事は毎年大好評のようである。入居者は食材の下ごしらえや食器洗いなどできることに取り組み、職員も一緒に食事を摂っており、台所からの調理音や匂いは、会話を引き出す要素にもなっているようであった。	本人の誕生を祝うために県外の家族がホームに集まり、祝いの会を楽しまれたとの事である。身体状況から食事の準備や片付けなど困難な方も多くなり、今後も入居者にとって様々な食への関わりが支援されていくことに期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	その人に合わせて量や切り方・大きさを考えて、1回/月体重管理を行い、それを確認しながら行っている。また、定期的な水分補給を行い、補水液の使用で電解質のバランスにも気をつけている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、歯磨き・うがいを行っている。義歯の方はその都度はずして洗浄している。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	その人の排泄パターンを把握して失敗に繋がらないように時間を見て、その人に合った時間にトイレ誘導を行っている。	排泄パターンを活用し、ベッドでの時間が多くなされた方にはオムツ使用もあるが、日中は時間誘導を行いながらトイレでの排泄を基本としている。排泄用品も業者から一括購入することや常に組み合わせを検討することで、本人の気持ちの良さや家族の負担軽減にもなっている。夜間のみ使用される方のポータブルトイレ(内ケース)は毎日、日曜は本体も天日干しが徹底されている。	排泄支援時は衛生面からもその都度エプロンを外し対応されている。自然排便など困難な入居者も多くなっているようであるが、今後も細やかな対応で排泄面からの健康支援を継続していただきたい。
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	1人1人排便チェックを行い、できるだけ自然排便を促すため、食べ物の工夫や水分補給・腹部マッサージを行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	本人の希望があればできるだけそれに応じているが、夜間の入浴は行っていない。	明るい浴室で職員は、可能な限り入居者の希望に応じながら現在は日中の入浴支援に努めている。寒い時期は拒否のされる方もおられるが、基本的に週2~3回の入浴を見守り・介助で安全に支援している。中には、殆ど自立で入浴される方もあり、入浴を済ませ「お先しました〜！」と、挨拶しながら出てこられた入居者の姿もあり、人生の先輩から学ぶ一言でもあった。	冬至では差し入れされた柚子を使った季節湯支援の写真がホーム内に掲示されている。今後は柚子や菖蒲など変わり湯支援の際は、ポスターで告知するなど工夫することで、更に楽しみや来訪したした家族との会話にも繋がると思われる。取り組みに期待したい。
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	本人の体調や希望に応じて自室やソファにて休息されている。夜間不眠の場合は不安なく安心して眠れるよう、しばらく傍にいたり、話を聞いたりしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	ホーム内の看護師が責任を持って確認および管理している。薬の目的・副作用は全職員が理解できるように努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活習慣や趣味を活かし、畑の野菜作り・収穫など、今までの経験を活かし、楽しみを見出して支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気のいい日には散歩へ出掛け、近所の方と会話をしたり、また、車で買い物へ出掛けたりする。桜の花見の時は家族の方と一緒に外でお弁当を食べたりしている。	重度化に伴い以前のような外出の機会は少なくなっているが、まずは身近に敷地内や近隣での散歩を楽しむ事に努めており、ご近所さんとの会話は、地域の中での暮らしを支える大切な時間にも繋がっている。また、個別支援で買い物や蓮、藤、バラ見学の他、家族の参加協力も得ながら桜の花見など季節の外出を楽しまれている。	「天候の良い日はちょっとでも外に出て、日光浴や外気に触れて欲しい。」開所時から代表者が職員に伝えている言葉である。今後も地域の田畑を眺め季節の移り変わりを感じるなど、身近な外出の機会が展開されていくことに期待したい。
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	1人の方は自分でお金の管理をしておられるが、他の方は家族の方より金銭をお預かりして職員が管理している。外出した時などは本人が使えるようにしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人より連絡を取りたいと希望があれば応じている。暑中見舞いや年賀状には書ける方は一筆書き添えられている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関には季節の花を、居間には入居者さん手作りの季節感ある貼り絵などを飾っている。日付も解かりやすいように貼っている。	庭先に敷かれた砂利石は入居者の散歩も楽しくなるような明るい色合いで、水はけの良いものが使用されている。以前保育園であった敷地には、そのまま残された“園庭の足洗い場”があり、入居者にとって高さや広さも使い勝手の良いもので大切に活用されている。採光の良いリビングにはイベント時などの写真や入居者の作品の掲示の他、季節に応じた絵画がかけられている。また、昨年10周年を祝った飾り付けも「年度末までそのままにして、今後の励みにしています!」と、管理者は語っている。	開設から年月を重ね物品も増えており、新年度を迎えるにあたり入居者の安全に配慮した片付けなどに期待したい。また、排泄用品の天日干しを行い祭も、なるべく目に入らない用な場所にも配慮されることも必要と思われる。
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファでゆっくり過ごしたり、思い思いの場所へ自由に行かれるようにしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人の馴染みのものを置いたり、写真を貼ったり、他の方に気兼ねなく過ごしたり、本人が居心地良く過ごせるよう努めている。	これからホームで過ごす入居者にとって、我が家同様にはいかないものの、安心して過ごせる空間となるよう、馴染みの品の持ち込みなど家族の協力を得ながら一緒に取り組んでいる。開所当時の入居者もおられ、高齢や重度化の状況の中、特に安全面への配慮や居室での時間が長くなれた方にはラジオの持ち込みを家族に依頼したところ、「ほどよい刺激に本人の反応が感じられます」と、語られたようである。庭先や隣接小学校の校庭が眺められるそれぞれの居室は、訪問の家族が来訪した際も共に寛げる十分な広さが設けられている。	居室で安眠できない方には、リビング内にカーテンで間仕切りをして、畳スペースやソファでやすんでもらうなど工夫されている。様々な身体状況から特に夜間対応で困難な場面も察するところであるが、今後も入居者にとって居心地のよい環境支援に取り組んで頂きたい。
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	本人のできること・わかることをしっかり把握して見守りを大事にしている。居室・浴室・トイレ等名前を表示してわかりやすく安全に努めて、自立した生活が送れるよう工夫している。		